

令和4年度 豚病性鑑定の実施状況について

昨年度、管内で哺乳豚4件、離乳豚14件、肥育豚9件、候補3件、母豚5件、と畜場採材42件の病性鑑定を実施しました。

ステージ	依頼内容	診断名	※不明となった依頼は除く
哺乳豚	死亡	腸管外病原性大腸菌症とPRRS	
	下痢	感染症を否定	
	皮膚病変	スス病	
離乳豚	死亡	豚胸膜肺炎（App2型）、浮腫病、レンサ球菌症、豚サーコウイルス関連疾病（PCVAD）、PRRS	
	発育不良	PCVAD、細菌性肺炎、大腸菌症	
	神経症状	グレーサー病、化膿性髄膜炎	
	咳	豚インフルエンザ疑い、レンサ球菌症疑い	
	下痢	大腸菌症、浮腫病疑い	
肥育豚	死亡	レンサ球菌症、豚胸膜肺炎	
	発育不良	細菌性肺炎	
	起立不能	豚白血病	
	咳	豚胸膜肺炎（App1型、2型）	
	下痢	サルモネラ症	
	血便	豚増殖性腸炎（ローソニア）	
候補	死亡	レンサ球菌症、胸膜肺炎、細菌性肺炎	
母豚	死亡	細菌性肺炎、レンサ球菌症、豚胸膜肺炎	
	嘔吐と下痢	不明（病原体検出されず）	
と畜場	材料	診断名	
出荷豚 ・ 大貫	肺	豚胸膜肺炎（App2型13件、5型1件）、豚マイコプラズマ症、細菌性肺炎	
	小腸	豚増殖性腸炎（ローソニア）	

**疾病は増体を妨げ、生産性を阻害します。
改善のために病性鑑定をご活用ください。**

- ◎ 解剖する場合は、豚熱・アフリカ豚熱ウイルスの遺伝子検査を実施します。（国指針）
遺伝子検査結果が出るまでは、豚の移動（出荷）を自粛して頂きます。
（例：午前中採材→当日夕方結果判明）
※と畜場検査、下痢便のみ等の場合は実施しません。
- ◎ 症状に応じて周辺豚の採血、下痢便、鼻腔スワブ等の採材が必要ですので、ご相談ください。
- ◎ 未治療の個体で検査することを推奨します。
治療済みだと原因菌が分離されにくいです。
菌分離ができれば、薬剤感受性まで調べます。
- ◎ と畜場検査では肺、鼻、内臓を確認することができます。ワクチンプログラム（マイコプラズマ、App、AR）や投薬プログラムの効果確認、発育遅延（小貫）、大貫の不調等の原因を調べることができます。
- ◎ 検査内容に応じ、手数料がかかります。
例：解剖+精密検査一式 6,700円

**検査結果に基づいた対策により
被害を最小限に食い止め、
生産性を向上させていきましょう！**

気になることがありましたら、まずはご連絡ください。

